会のこれまでとこれから

～住民の健康を守ろう！～

青森県在宅保健師の会

「青森県在宅保健師の会」設立

本会は、平成１０年４月２７日の設立総会で「青森県保健婦の会」として誕生しました。

設立にあたっては、在宅保健師の組織化が必要との声をうけ、６名の発起人の方々による会結成に向けた話し合いに加え、国保連合会の力強い支援がありました。

≪青森県保健婦の会設立趣意書≫

わが国は、少子化と高齢化が同時に進行し、21世紀半ばには国民の3人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えようとしています。

こうした状況の下で、人々が健康で質の高い老後の生活を送るために必要な方策が大きな課題となっております。

保健婦活動は、時代とともにその内容を大きく変えながらも、総合的に疾病予防や健康づくりの推進に努力してまいりました。

しかし、現状は、限られた保健婦の数や体制の中で、その必要とすることに十分に対応できる状況とはいえないままに経過しておりますが、いま、地域保健法の全面実施や介護保険制度の創設にともない保健婦職能の果たす役割に大きな期待が寄せられているところであります。

≪青森県保健婦の会設立趣意書（つづき）≫

　こうした中で、過日、国保連合会主催により実施された平成９年度「在宅保健婦研修会」に参加された方々から、在宅の保健婦有資格者が力を合わせて**市町村の保健・福祉事業への協力、支援**を図ることが急務であり、且つまた、**情報交換の場が必要**であるとの考えから**在宅保健婦有資格者の組織化が必要**であるとの声があり、設立に向けて発起人が自主的な話し合いの場を設け、会の結成について検討してきたところであります。

　お陰様をもちまして、このたび国保連合会の支援のもとに設立総会並びに研修会を開催する運びとなりました。

　人生を生き生きと豊かに過ごし、保健婦資格を生かし、更に相互の情報交換をもちながら地域に貢献する拠点としての「青森県保健婦の会」に多くのみなさまのご理解とご賛同をいただき、会へのご参加を心からお願い申し上げます。

平成１０年２月２３日　　設立発起人　伝法谷 巳代　相馬 ふさゑ
佐藤 コウ　　高岡 ふさゑ
古川 あき　　山崎 トコ

会設立10周年（H20.3.8）記念セレモニーには発起人の方々をはじめ関係する沢山の方がご出席されました！

1. 会の目的

　地域における保健活動の重要性を認識し、地域住民の健康づくりを支援するため、保健師資格を生かし、地域の保健・福祉活動に寄与するとともに、会員の資質の向上を図ることを目的とする。

モットー

○　会員の自主的な保健福祉活動を尊重し、支援する。
○　市町村や県など関係機関等との連携のもと現職保健師が実施する保健福祉活動に積極的に協力する。
○　保健師としての知識・技術等の質を担保するため会として研修を開催するなど常に情報発信していく。

2. 会のあゆみ

平成10年 4月　「青森県保健婦の会」設立、会員数70名
平成13年11月　在宅保健婦長連絡会で事例報告
平成18年 4月　保健協力員会の県組織化への全面支援
平成19年 6月　「青森県在宅保健師の会」に会の名称を変更
平成20年 3月　10周年記念ｾﾚﾓﾆｰ開催・10周年記念誌発行
平成22年12月　青森県健康づくり事業功労者等表彰受賞
平成25年 3月　東日本大震災における被災者の支援活動等に対する厚生労働大臣感謝状受賞
平成25年 5月　15周年記念ﾊﾟｰﾃｨｰ開催
平成26年 3月　15周年記念誌発行
平成26年 3月　公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰受賞
平成28年 2月　都道府県在宅保健師等会全国連絡会で事例報告
平成29年 5月　20年記念ﾊﾟｰﾃｨｰ開催

§会設立10周年記念 その1

司会の古澤です！

会長の古川です。皆様に感謝いたします。

おめでとうございます!!

住澤県看護協会長

難波県健康福祉部長

寺田国保連合会常務理事

§ 会設立10周年記念 その2

歴代会長からのご挨拶

乾杯!

感慨深いメッセージ
をいただきました。

§会設立10周年記念 その3

「青森の自然」スライドコンサート
歌とギターに合わせて豊かな青森の自然を味わいました。

感動したね
～！

§ 会設立15周年記念 その1

§ 会設立15周年記念 その2

司会の千葉です。

会長の古川です。皆様のご協力に感謝します。

おめでとうございます！

江浪県健康福祉部長

米谷市町村保健師活動協議会長

記念講演

寺田国保連合会常務理事

§会設立15周年記念 その3

活動発表「松島会館『いこいの集い』の実践から」

かんぱ～～い!

クイズ　私は誰でしょう？

レッツ!!　フラダンス

§ 栄誉ある受賞の数々

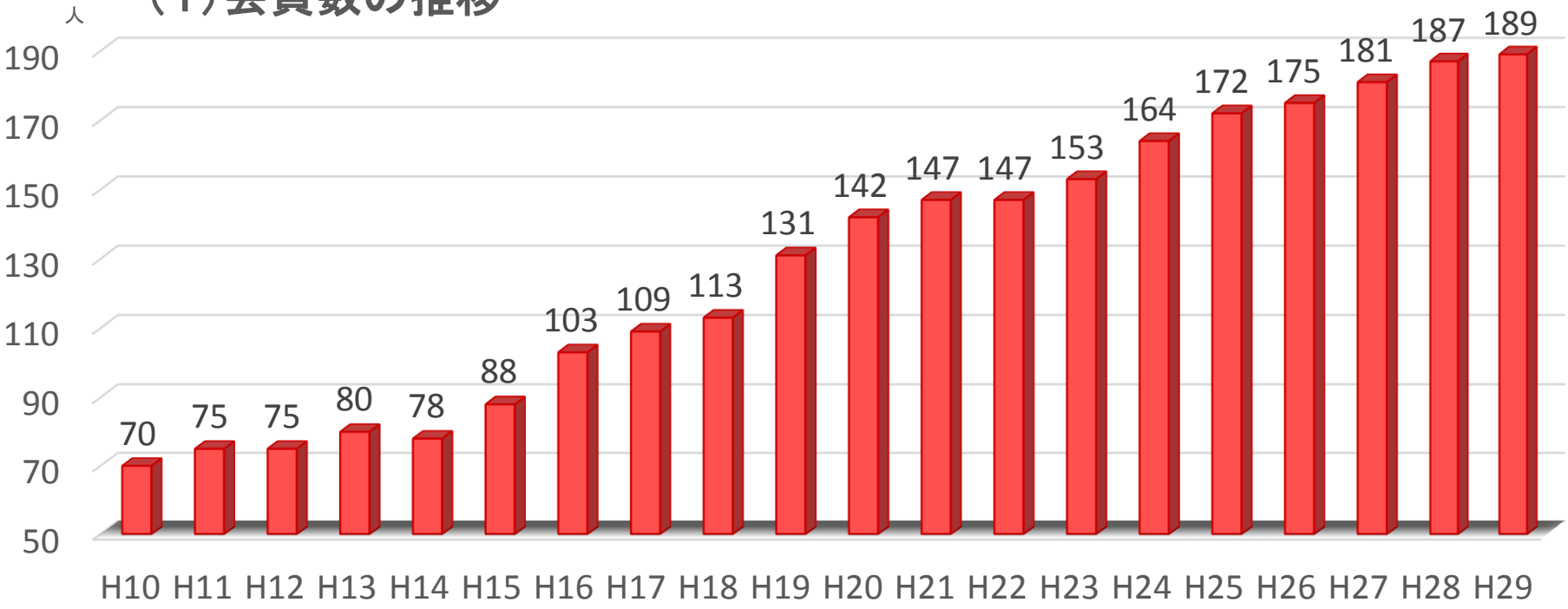
青森県健康づくり事業功労者等表彰

東日本大震災における被災者の支援活動等に対する厚生労働大臣感謝状

公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰

3. 会員の状況

（1）会員数の推移



（2）会員の年齢構成（H29年度分）

年代別内訳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
人数(人)	**1**	**10**	**21**	**80**	**54**	**20**	**3**
割合(%)	0.5	5.3	11.1	42.3	28.6	10.6	1.6

4. 会の主な活動・事業

１　各種研修会等の開催及び案内（設立当初～継続中）

２　地域の保健・福祉活動支援事業（平成11年度～継続中）

３　会員のアンケート実施（平成18年度～継続中）

４　会報の発行（平成21年度～継続中）

５　県・市町村・国保連合会等からの要請事業等への支援・協力

（1）青森市国保訪問指導事業（平成10年度～24年度）

（2）介護保険苦情処理事業への協力（平成15年度～25年度）

（3）青森県保健協力員会等連絡協議会への支援・協力（平成18年度～継続中）

（4）青森県新任等保健師育成支援事業（平成20年度～継続中）

（5）特定健診・特定保健指導に関する取り組み（平成20年度～継続中）

（6）小規模保険者支援事業（平成26年度～継続中）

（7）市町村介護予防支援事業（平成27年度～継続中）

（8）各種委員の委嘱、各種事業等への協力（設立当初～継続中）

4－1　各種研修会（常に学びの姿勢で・・）

会設立当初から、常に保健師としての資質向上に努められるよう、会主催あるいは国保連合会等と共催で研修を実施するほか、県や国保連合会等関係機関が開催する研修を案内してきた。

（1）会が主催又は共催した主な研修

・総会時研修（H10年度～継続中）
・在宅保健師と保健協力員等の連携強化のための研修（H21・22年度・・27年度）
・在宅保健師等のための特定保健指導フォローアップ研修会（H21年度）
・保健所ブロック別研修会・交流会（H24年度～継続中）
・保健師活動の歴史を学ぶ研修（H25年度）

（2）会員が継続参加している関係機関主催の主な研修

・保健活動研修会（H11年度～継続中）
・保健協力員研修会（H11年度～継続中）

§いつだって一生懸命・・保健師

議論も大好き!!
ここからいろんな発想が・・・

運動も一生懸命！
左右違ってたってOK!

4－2　地域の保健・福祉活動支援事業

在宅保健師が身近な地域で行っている保健福祉活動に対し、平成11年度から助成事業として開始。初年度は、「センター濱未来」「ともしび会」「松原童謡と唱歌を歌う会」の3団体に助成した。

H12～14年度：4団体
H15～18年度：5団体
H19年度：7団体、H20年度：5団体
H21年度：3団体
H22～26年度：5団体
H27年度：3団体
H28、29年度：4団体

平成元年に退職した相馬ふさゑさんの長年の夢

「保健師の経験、知識を生かし、行政に捉われず自由な立場で地域のお年寄りと一緒に生きがいを感じ活動できる場を作り出す」こと。町内の方々の意識調査では、「高齢者の集う場」の希望が圧倒的にあり、同年に町内会事業の一環として「センター濱未来」を開設し、5月から高齢者が毎週水曜日に集うこととなった。

いろいろな方がボランティアとして参加し、現在も町内会の活動として継続している。

4－4　会報の発行

　会の活動紹介や、会員の近況報告、情報交換の場とすることを目的に平成21年度から会報（H21年7月に第1号、H22年1月に第2号）を発行。平成22年度からは年3回発行となり現在まで継続している。

会報第1号、2号はA3両面の手作り感満載！

第3号からは、A4判6Pのコート紙となりました。会報第21号（H28.8月号）

4-5(3)県保健協力員会等連絡協議会への支援・協力

①県組織化に向けた支援

H18年度：国保連が保健協力員の県組織立ち上げを当会へ委託、会は県所管課との協議を経て、研修会や設立準備委員会の開催などを通して市町村等関係者の総意を得た。

H19年5月：県保健協力員会等連絡協議会設立

②県協議会活動への支援

・保健協力員活動活性化検討会への参加（H24年8月、H25年12月）

・研修会の参加協力

「保健協力員代表者研修会（H11年度～名称改め継続中）」

「在宅保健師と保健協力員等の連携強化のための研修会（H21・22年度）」

「在宅保健師を活用した地区組織育成支援事業（H23～27年度）」

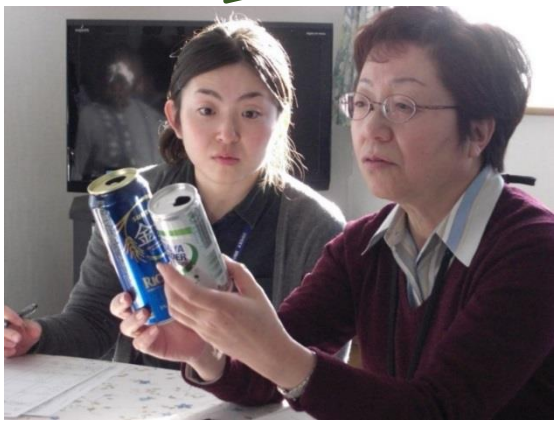
4-5(4)新任等保健師育成支援事業

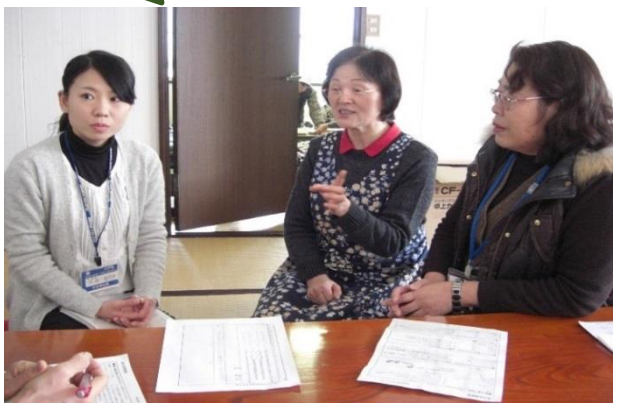
県内の地域保健活動活性化のため、行政経験のある退職保健師がトレーナー保健師として、新任等保健師が行う保健活動を支援し、**知の伝承**を行ってきた。平成20年度から県と国保連の共同事業とし、当初から当会が全面的に協力。

実　績（H20～H28年度）

- 支援を受けた新任等保健師延96名（市町村68名、保健所28名）
- 支援したトレーナー保健師　実39名、延91人
- トレーナー保健師登録者　46名（H28.4月現在）

平成23年度東北ブロック会議、平成27年度全国会議で事例報告。





＊H21年度に大分県退職保健師等「虹の会」が視察のため来県

4－5 その他に支援している事業

訪問前の住居確認。
老眼鏡で地図を探します。

(6)小規模保険者支援事業

被保険者3千人未満の小規模保険者への支援（特定健診複数年未受診者等への受診勧奨訪問、訪問結果を踏まえ今後の保健活動について保険者と検討）

(7)市町村介護予防支援事業

三戸町のいきいき百歳体操交流会
皆さんホントにイキイキ!!

住民主体で運営する通いの場づくりなど地域における介護予防事業が円滑に行われるよう県内5市町村にアドバイザーとして協力・支援

(8)各種委員の就任

国保・後期高齢者ヘルスサポート事業保健事業支援・評価委員会委員、青森県介護保険審査会専門調査員等

5　本会の役割

　在宅保健師は、これまで同様に在宅保健師として地域活動を地道に続けるとともに、その経験を活かした支援活動にも参画するなどし、**保健師活動の「知」を伝承**していく役割を担っている。

在宅保健師の会の役割

★本会として、相互に顔を合わせて意見交換・情報交換できる機会を大事にする。

★現職保健師が関与しやすい内容の取組を本会として計画するなどし、一緒に住民の健康づくりを考える。また、現職からの依頼は可能な限り受け入れ活動する。

★会員の意見を吸い上げた活動に努める。

※　会への期待（平成29年4月現況調査結果から）　回答132名（複数回答）

会報による情報提供　110名（83.3%）
研修会の開催　96名（72.7%）
会員間の交流　68名（51.5%）
地域のボランティア活動への参加　38名（28.8%）
仕事や市町村事業の紹介　21名（15.9%）